

第 2 回琵琶湖オオクチバス等防除モデル事業調査 検討会 議事要旨

日時：平成 18 年 12 月 18 日(月) 13：30～16：00

場所：滋賀県農業教育情報センター - 1F 第 1 研修室

出席者：細谷委員(座長)、久保委員、高橋委員、中井委員、西野委員、松岡委員

国土交通省琵琶湖河川事務所河川環境課(2名出席)、滋賀県自然環境保全課、滋賀県水産課(2名出席)、滋賀県水産試験場(2名出席)

事務局：環境省、(財)琵琶湖・淀川水質保全機構

議事内容：

座長あいさつ

- ・ 外来魚の駆除について、水抜きをしないと完全に駆除できないという常識があるが、ある一定量以下に抑えることで、特に開放系の広い水域では配偶者との遭遇確率が減るため絶滅可能かもしれない。今日は、積極かつ忌憚ないご意見をお願いしたい。

資料 - 1(平成 18 年度調査内容と進捗状況)について

- ・ 冬季繁殖の可能性について、彦根旧港湾では繁殖しない水温ではない。恒常的に水温が高い。オオクチバスでは秋季から GSI が高い事例が報告されており、冬季にここへ移動してきたものは繁殖する可能性がないとはいいきれない。
- ・ 調査項目タイトル「冬季繁殖確認調査」「冬季蝸集調査」の誤り

資料 - 2 - 1(内湖における調査結果中間概要)について

- ・ 今回の調査結果をみると、他の内湖に比べ、オオクチバス、ブルーギルともに明らかに繁殖に成功していないと見える。成魚はいるのだから、成魚がいることと、繁殖していることとは別のことであり分けて考えるべきだろう。
- ・ 水温等の影響からか、今年は琵琶湖に生息する全ての魚の動態が 1 ヶ月かそれ以上遅れた。8 月中旬にブルーギル仔稚魚が多く確認されたことと関係があるのではないか。
- ・ 7/18 以降に一気に琵琶湖の水位が+60cm 程度まで上がった。また、これに伴い野田沼の水温が急激に下がっている。これがブルーギルの繁殖にとってマイナスに働いた可能性がある。
- ・ 今年の結果について近傍の観測所の雨量とあわせて解析して頂きたい。水位の図に雨量データを重ねるとよい。
- ・ 資源量の推定について、標識魚がどうなったのか気になる。既存文献で整理できるのではないか。例えば三重大学の河村先生の仕事で DNA によりブルーギルは多様性が低く大回遊を行っており、一方、オオクチバスは地域性が強いことがわかっている。このようなことも加味しながら方向性を出して頂きたい。
- ・ タグ標識は 2~3 ヶ月で脱落する。尾鰭も 2~3 ヶ月で再生する。このため飼育試験などを行ってそれを確認しておいたほうが良い。

- ・ 野田沼でオオクチバスの再生産がなぜできないのか、というところに注目して検討して頂きたい。人工産卵床で 2 例産卵が見られたということは、自然でも産卵しているだろう。
- ・ 仔稚魚について、ヨシ帯の前面にいるということだが、(水位変化、降雨によって)餌となるプランクトンが発生できなくなり、ヨシ帯から前面へ移動していた可能性があるのではないか。来年度に簡単な方法(例:バケツ採水してプランクトンネットでこし、甲殻類プランクトン数だけ計数する方法)で良いので調査して頂きたい。

資料 - 2 - 2(琵琶湖における調査結果中間概要)について

- ・ 漁獲統計について、北湖と南湖でとれる時期が違うのはここ数年このような傾向である。これには漁業者の熱心さ、他にとる魚があるかないかの違いがあると思う。北湖はアユが終わってから(オオクチバス、ブルーギルの駆除を)始めるという感じを受ける。この統計については、様々なバイアスがかかった上での統計データということである。
- ・ 蝸集調査について、蝸集のパラメータを抽出して、伝聞情報を科学的にしていけばどうか。例えば、水温、水深、形状やカバレッジ(遮蔽)など。また、パラメータは絶対値としてではなく勾配をみればよい。

その他

- ・ 各地で実施されているモデル事業の意見交換会について、平成 19 年 1 月 29~31 日(アライグマ 29、30 日、オオクチバス 30、31 日)に開催を予定している。座長にも出席して頂く予定である。
- ・ 第 3 回検討会について、平成 19 年 3 月 7 日午後を開催することとする。

以上

(文責:近畿地方環境事務所)